

(第2号様式)

西崎特第 2326号
令和 8年 3月 9日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立西崎特別支援学校
校長 稲田 洋一
(公印省略)

令和7年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和7年12月5日付け教県第1750号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和7年6月13日	場所	校長室	出席 状況	4名参加(評議員4名中)
第2回	日時	令和7年12月3日	場所	校長室	出席 状況	4名参加(評議員4名中)
第3回	日時	令和8年2月25日	場所	校長室	出席 状況	2名参加(評議員4名中)

2 学校評議員に求めた事項

本年度は卒業生保護者、社協事務局長、元校長、就労支援コーディネーターの4名を学校評議員として選任した。いずれも保護者視点、福祉的支援、学校経営、就労移行支援といった専門性を有し、児童生徒の成長や教育課程の適切性、地域・福祉との連携、卒後支援の充実などに関する助言を求めた。各学期に学習活動・行事の報告を行い、学部間の接続、進路支援、防災連携の強化、教育活動の質向上について意見を心得て学校運営の改善に反映させることを目的としている。

3 学校評議員の意見

児童生徒の明るさや学習意欲、職員の落ち着いた指導が良好な教育環境を支えていると高評価。地域交流や外部機関連携、職業学習の充実も肯定的に受け止められ、学力のみならず社会性や内面の成長が着実であるとの見解が示された。一方で、中学部から高等部への系統的接続、卒後を見据えたキャリア教育の強化、防災面における地域連携の深化、成果発信の工夫など、今後の改善に向けた具体的提案が提示された。

4 学校運営に反映した事項

提言を踏まえ、交流学习を継続し、事前学習や相手校との調整を強化して学びの質を向上。学部間の系統性に基つき、「働くこと」を軸に見学・実習が学年間で連続するよう内容を整理した。高等部では接客・喫茶サービス学習や技能検定への挑戦を進め、職業教育の専門性を一層強化。防災面では地域自治会や福祉関係者との連携を深め、避難所との協議を開始するなど、地域との協働体制を具体的に拡充した。

5 課題その他

将来意識を育む目標設定と振り返りの仕組み、学部間の系統的接続強化、高等部への円滑な移行支援など、体系的なキャリア教育の構築が急務。卒後支援では、就労に直結する力の育成と、進路多様化に対応した個別最適な支援体制整備が重要。職業教育では地域連携機会の拡大、実習の質的充実、成果評価の明確化が課題。あわせて、成果発信の工夫や保護者支援体制の強化など、学校・地域・家庭を結ぶ仕組みづくりを継続的に検討する必要がある。